

# 「音楽づくり・創作」の授業デザイン

## 新しい評価規準に関する追加資料

はじめに … 2

### 第1章

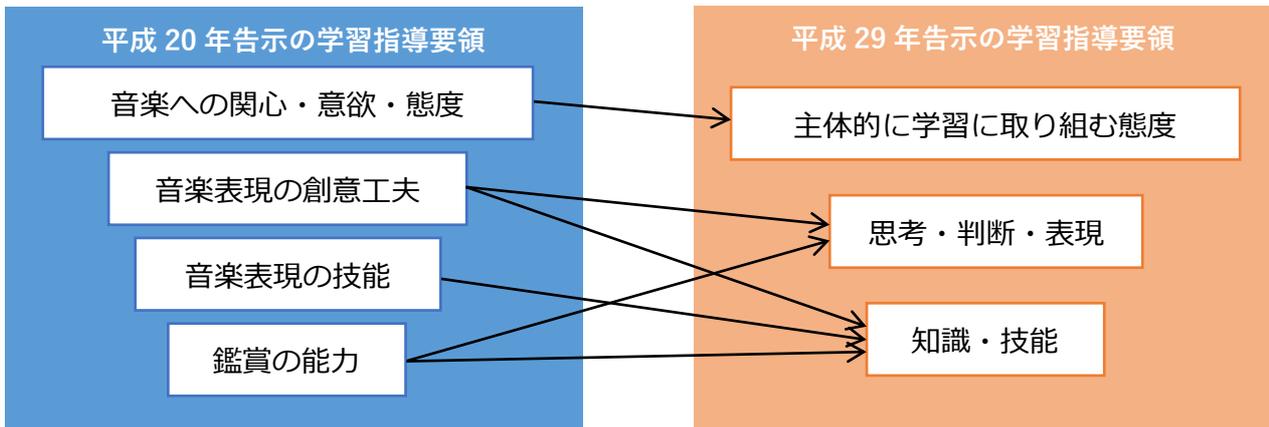
- ・リズム遊びから即興的なリズムアンサンブルへ… 4
- ・いろいろな拍のまとまりを感じ取ることから  
様々な拍子の即興的なリズムアンサンブルへ… 5
- ・音色の聴き取りから即興的なアンサンブルへ… 6
- ・言葉・声遊びから声によるアンサンブルへ… 7
- ・旋律のまねっこからまとまりのある旋律づくりへ… 8
- ・音の重なりから和音の響きへ… 9

### 第2章

- ・小学校 第1学年「わらべうたでつくろう」… 10
- ・小学校 第3学年「リズムパターンでつくろう」… 11
- ・小学校 第5学年「日本の音階で旋律をつくろう」… 13
- ・中学校 第1学年「音楽のつくりを生かして」… 15
- ・小学校 第2学年「だがかきの音色を生かして音楽をつくろう」… 17
- ・小学校 第4学年「打楽器の音楽をつくろう」… 20
- ・小学校 第6学年「いろいろな声を重ねて音楽をつくろう」… 23
- ・中学校 第3学年「ジャズブルースでSwing swing swing！」… 26

## はじめに

小学校では令和2年度より、中学校では令和3年度より、平成29年告示の学習指導要領が完全実施となり、それに伴って評価の観点が変わりました。本学習指導要領の作成過程において、すでに評価の観点下記のように変わることは、伝えられてきましたし、新しい観点がこれまでの観点とどのように関連しているのかについても示されてきました。



令和2年3月には、小・中学校それぞれに向けて、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」が国立教育政策研究所教育課程研究センターのHPにて公開され、6月末には出版物として発行されました。

『「音楽づくり・創作」の授業デザイン』（以下、本書）では、そうした教育の動向を見据えながら音楽づくりの考え方や事例を掲載いたしました。評価については従来の観点で、その規準や「Aと判断するポイント」「Cになりそうな子供への支援」を記載しました。それは、本書の第1刷を発行した時期（平成28年<2016年>）には、従来の評価の仕方がようやく定着してはいましたが、どのように評価したらよいかを知りたいという、より具体的な内容が求められていたからです。実際に、小学校では平成31年度まで4観点を評価規準を設定し、評価を進めてきましたし、中学校では令和2年度までそれが続いています。

しかし、小学校では令和2年度から、中学校では令和3年度から、新学習指導要領の完全実施に伴い、評価の観点を上記のように変えて評価規準を設定し、子供の姿を見取っていかねばなりません。各学校では、それに沿って通知表の各教科・領域等の文言も工夫されていることでしょう。

そこで、本書の評価に関わる記載内容を、現在進められている評価の観点で見直すことにより、先生方に本書をより活用していただけるのではないかと考え、この追加資料を作成いたしました。新学習指導要領が示す学習内容は、従来のものと大きく変わっているわけではありません。したがって、事例そのものはこれからも十分に活用できる内容です。現在求められている「主体的・対話的で深い学び」を実現できるように実践された事例ですから、むしろ、積極的に活用していただきたい内容です。つまり、同じ事例であっても子供を見取る評価規準を見直すことで、発問の仕方を工夫したりこれからの評価の在り方を考えたりする材料になるのではないかと考えたのです。事例の中での教師の価値付け等の文言にはふれることができませんでしたが、読者の先生方が、この追加資料を参考にしながら子供に合った内容にしてほしいと願い、評価規準、「Aと判断するポイント」「Cになりそうな子供への支援」についてのみ変更しています。

評価規準を見直す中で、前記の参考資料の文言をできるだけ生かすようにいたしました。実際に子供を見取るときは、より具体的な視点が必要だと考え、本追加資料では、事例の内容に沿ってできる限り授業での評価の実際が見えるように設定したつもりです。本書に示してある従来の評価規準とこの追加資料で記載した評価規準とを見比べていただくことで、その相違点、共通点等がより明確になるのではないかと考えています。

例えば、前記の参考資料では、「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は、どの学年も同じ「音楽づくりの学習に主体的・協働的に取り組もうとしている」と例示されていますが、本追加資料では、以下のようにいたしました。

低学年	反復や呼びかけとこたえを使ったリズム遊びのよさや面白さに興味・関心をもち、 <u>互いのリズムを聴き合いながらリズムをつくる</u> 学習に <u>楽しんで</u> 取り組もうとしている。
中学年	リズムのつなげ方や重ね方のよさや面白さに興味・関心をもち、 <u>互いの音を聴き合いながら即興的にリズムを組み合わせた</u> り <u>重ねたりする</u> 学習に <u>進んで</u> 取り組もうとしている。
高学年	リズムのつなげ方や重ね方のよさや面白さに興味・関心をもち、音楽の仕組みを生かして <u>リズムを組み合わせる活動を楽しみながら即興的にリズムアンサンブルをつくる</u> 学習に <u>主体的・協働的に</u> 取り組もうとしている。

(※本書p.31→追加資料p.4「主体的に学習に取り組む態度」)

また、学習指導要領の改訂により、用語にも微妙な変更があります(以下の表の下線部分)。例えば、「音楽の仕組み」にある「問いと答え」が「呼びかけとこたえ」に、「音楽の縦と横の関係」が「音楽と縦と横との関係」になど、いくつかあります。ほかにも、本書第1章は「音遊び」「即興的な表現」に関わる内容であるため「拍の流れ」という音楽を特徴付けている要素の一つが頻繁に使用されていますが、改訂に伴い「拍」という言葉に変更されていますので、「拍の流れ」→「拍」という具合に適宜、読み替えていただくことをお願いいたします。

旧学習指導要領	新学習指導要領
(ア) 音色, リズム, 速度, 旋律, 強弱, 音の重なりや <u>和声の響き</u> , 音階や調, <u>拍の流れ</u> やフレーズなどの音楽を特徴付けている要素	ア 音楽を特徴付けている要素 音色, リズム, 速度, 旋律, 強弱, 音の重なり, <u>和音の響き</u> , 音階, <u>調</u> , <u>拍</u> , フレーズなど
(イ) 反復, <u>問いと答え</u> , 変化, 音楽の縦と横の関係などの音楽の仕組み	イ 音楽の仕組み 反復, <u>呼びかけとこたえ</u> , 変化, 音楽の縦と横 <u>との</u> 関係など

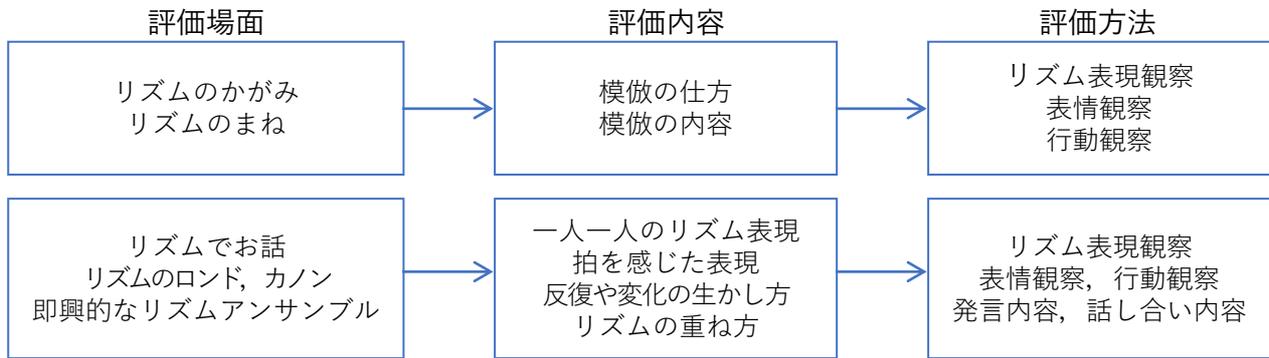
基本的に、学習評価は、学校の状況や児童・生徒の実態に応じて、学校全体で考え、保護者にも説明し納得してもらえるように進めていくものです。この追加資料を参考にいただき、学校全体で子供をどう育てその成長を見つめていくのか、話し合っただけだとは思いません。音楽づくりの評価がより分かりやすく、子供の成長を支える評価となり、教師自らの音楽づくりの指導が楽しいものになるように願っています。

監修者 石上則子

2020年10月

◆リズム遊びから即興的なリズムアンサンブルへ (p.24～31)

評価の進め方

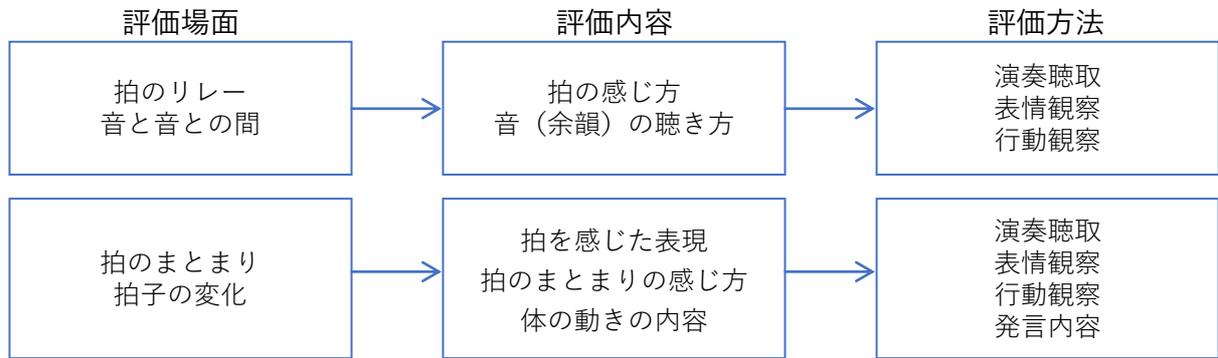


評価規準の設定例

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
低学年	<p><b>知</b>リズムのつなげ方の特徴について、それらが生み出す面白さと関わらせて気付いている。</p> <p><b>技</b>発想を生かした表現をするために必要な、反復や呼びかけとこたえになるリズムを即興的につなげて表現する技能を身に付けて音楽をつくっている。</p>	<p>リズムや反復、呼びかけとこたえを聴き取り、拍とリズムとの関わり合いによって生み出されるよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考え、即興的にリズムをつなげたり体を動かしたりして、音楽づくりの発想を得ている。</p>	<p>反復や呼びかけとこたえを使ったリズム遊びのよさや面白さに興味・関心をもち、互いの音を聴き合いながらリズムをつくる学習に楽しんで取り組もうとしている。</p>
中学年	<p><b>知</b>リズムのつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さと関わらせて気付いている。</p> <p><b>技</b>発想を生かした表現をするために必要な、反復や呼びかけとこたえ、変化などでリズムを即興的に組み合わせる表現する技能を身に付けて音楽をつくっている。</p>	<p>リズムやその重なり、反復、呼びかけとこたえや変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考え、即興的にリズムを組み合わせたり重ねたりして、音楽づくりの発想を得ている。</p>	<p>リズムのつなげ方や重ね方のよさや面白さに興味・関心をもち、互いの音を聴き合いながら即興的にリズムを組み合わせたり重ねたりする学習に進んで取り組もうとしている。</p>
高学年	<p><b>知</b>リズムのつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さと関わらせて理解している。</p> <p><b>技</b>発想を生かした表現をするために必要な、反復や呼びかけとこたえ、変化や音楽の縦と横との関係などで即興的にリズムを組み合わせる表現する技能を身に付けて音楽をつくっている。</p>	<p>リズムやその重なり、反復や呼びかけとこたえ、変化や音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考え、即興的にリズムアンサンブルをつくることを通して、音楽づくりの様々な発想を得ている。</p>	<p>リズムのつなげ方や重ね方のよさや面白さに興味・関心をもち、音楽の仕組みを生かしてリズムを組み合わせる活動を楽しみながら即興的にリズムアンサンブルをつくる学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。</p>

◆いろいろな拍のまとまりを感じ取ることから  
様々な拍子の即興的なリズムアンサンブルへ (p.32~37)

評価の進め方

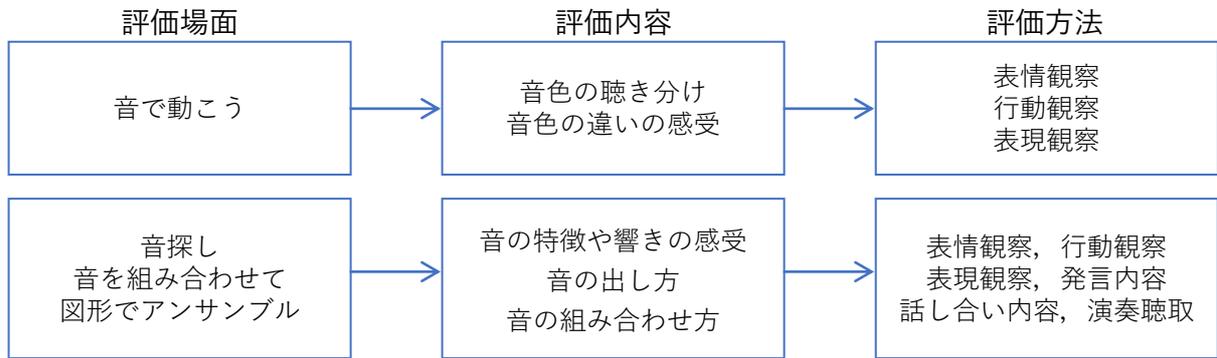


評価規準の設定例

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
低学年	<p><b>知</b>音やそのつなげ方の特徴について、それらが生み出す面白さと関わらせて気付いている。</p> <p><b>技</b>発想を生かした表現をするために必要な、音の響きや速度、拍子を決めて、即興的に音を選んだりつなげたりして表現する技能を身に付けてつくっている。</p>	<p>音色や拍のまとまり、呼びかけとこたえを聴き取り、拍の有無と音との関わり合いによって生み出されるよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考え、即興的に拍のまとまりの違いを意識して音をつなげたり体を動かしたりして、音楽づくりの発想を得ている。</p>	<p>音の響きや拍のまとまりのよさや面白さに興味・関心をもち、リズム遊びを楽しみながら、拍を感じてリズムをつくる学習に楽しんで取り組もうとしている。</p>
中学年	<p><b>知</b>楽器の音の響きやそれらの組合せ、音や異なる拍子のつなげ方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さと関わらせて気付いている。</p> <p><b>技</b>発想を生かした表現をするために必要な、音の響きや拍子の変化などを設定し、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付けてつくっている。</p>	<p>音色や音の特徴、拍のまとまりや自由なリズム、反復と変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考え、即興的に音の響きや拍の有無、拍子を変えることを通して、音楽づくりの発想を得ている。</p>	<p>音の響きや拍のまとまりの違いのよさや面白さに興味・関心をもち、互いの音を聴き合いながら即興的に音やリズムを組み合わせたり重ねたりする学習に進んで取り組もうとしている。</p>
高学年	<p><b>知</b>楽器の音の響きやそれらの組合せ、音や異なる拍子のつなげ方や重ね方の特徴を、それらが生み出すよさや面白さと関わらせて理解している。</p> <p><b>技</b>発想を生かした表現をするために必要な、音の響きや拍のまとまりの違い、反復、変化、音楽の縦と横との関係などを設定し、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付けてつくっている。</p>	<p>音色や音の特徴、拍のまとまりや自由なリズム、その重なり、音楽の仕組みを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考え、即興的に拍のまとまりを意識したリズムアンサンブルをつくることを通して、音楽づくりの様々な発想を得ている。</p>	<p>音の響きや変化する拍のまとまりの違いのよさや面白さに興味・関心をもち、音楽の仕組みを生かしてリズムを組み合わせる活動を楽しみながら即興的にリズムアンサンブルをつくる学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。</p>

◆音色の聴き取りから即興的なアンサンブルへ (p.38~43)

評価の進め方

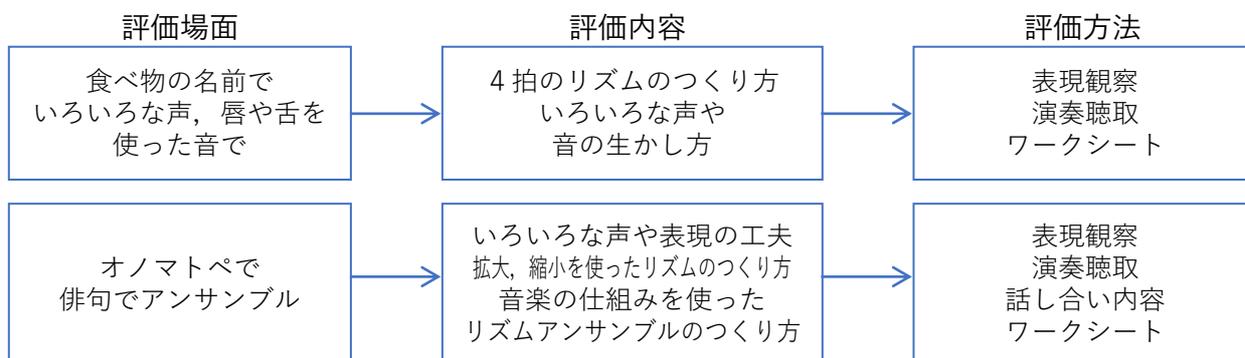


評価規準の設定例

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
低学年	<p><b>知</b>身の回りの楽器の音の特徴について、それらが生み出す面白さと関わらせて気付いている。</p> <p><b>技</b>発想を生かした表現をするために必要な、音色や音の特徴を生かした呼びかけ合いを条件に、即興的に音をつなげて表現する技能を身に付けて音楽をつくっている。</p>	<p>身の回りの打楽器の音色や音の特徴、呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考え、即興的に音の出し方やつなげ方、体の動かし方を工夫して、音楽づくりの発想を得ている。</p>	<p>打楽器の音色や音の特徴を生かした音遊びに興味・関心をもち、互いの音を聴き合いながら即興的に音をつくる学習に楽しんで取り組もうとしている。</p>
中学年	<p><b>知</b>いろいろな打楽器の音の響きや組合せの特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて気付いている。</p> <p><b>技</b>発想を生かした表現をするために必要な、音色や音の特徴を生かしながら反復や変化を使って、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付けて音楽をつくっている。</p>	<p>いろいろな打楽器の音色や音の特徴、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考え、即興的に音を組み合わせたり反復させたりして、音楽づくりの発想を得ている。</p>	<p>いろいろな打楽器の音色や音の特徴、それらが重なり合う響きや図形の楽譜のよさや面白さに興味・関心をもち、互いの音を聴き合いながら即興的に音を組み合わせたり重ねたりする学習に進んで取り組もうとしている。</p>
高学年	<p><b>知</b>いろいろな打楽器の音の響きや組合せの特徴について、それらが生み出すよさや面白さと関わらせて理解している。</p> <p><b>技</b>発想を生かした表現をするために必要な、音色や音の特徴を生かしながら図形の楽譜と関わらせて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付けて音楽をつくっている。</p>	<p>いろいろな打楽器の音色や音の特徴、音の重なり、反復や呼びかけとこたえ、変化や音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考え、即興的にアンサンブルをつくることを通して、音楽づくりの様々な発想を得ている。</p>	<p>いろいろな打楽器の音色や音の特徴、それらの組合せによる響きの違いと図形楽譜との関わりによさや面白さに興味・関心をもち、打楽器の響きを生かした音楽活動を楽しみながら即興的にアンサンブルをつくる学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。</p>

◆言葉・声遊びから声によるアンサンブルへ (p.44~49)

評価の進め方

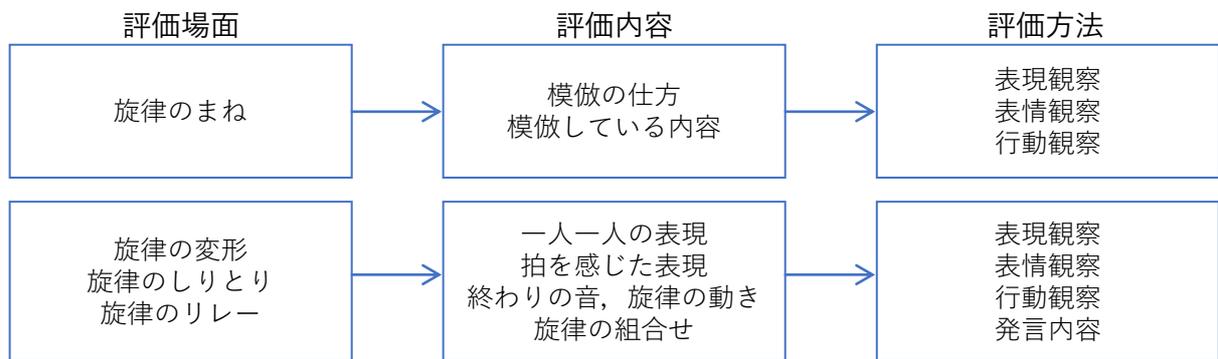


評価規準の設定例

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
低学年	<p><b>知</b> 声や言葉のリズムの特徴について、それらが生み出す面白さに関わらせて気付いている。</p> <p><b>技</b> 発想を生かした表現をするために必要な、4拍の言葉に合うリズムを即興的につなげたり、声、唇や舌でつくるいろいろな音を選んだりして表現する技能を身に付けて音楽をつくっている。</p>	<p>言葉のリズム、声や唇、舌でつくる音の特徴を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考え、即興的にリズムや口でつくれる音を工夫して、音楽づくりの発想を得ている。</p>	<p>4拍の言葉のリズムやいろいろな声や唇、舌でつくる音のよさや面白さに興味・関心をもち、声遊びをしながら、リズムや音を一人で考えたり友達とつなげたりする学習に楽しんで取り組もうとしている。</p>
中学年	<p><b>知</b> 声や舌、唇でつくる音や言葉のリズム、それらの組合せ、音やリズムのつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さに関わらせて気付いている。</p> <p><b>技</b> 発想を生かした表現をするために必要な、即興的に4拍の言葉のリズムを組み合わせたり、声、唇や舌でつくるいろいろな音を選択したりして表現する技能を身に付けて音楽をつくっている。</p>	<p>言葉のリズム、声や唇、舌でつくる音の特徴、反復や呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考え、即興的に言葉のリズムや口でつくる音を組み合わせ、音楽づくりの発想を得ている。</p>	<p>4拍の言葉のリズムや声や唇、舌でつくる音、それらの組合せのよさや面白さに興味・関心をもち、友達と一緒にリズムや音を組み合わせる音楽活動を楽しみながら即興的に音楽をつくる学習に進んで取り組もうとしている。</p>
高学年	<p><b>知</b> いろいろな声、言葉の抑揚やリズム、それらの組合せ、そのつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さに関わらせて理解している。</p> <p><b>技</b> 発想を生かした表現をするために必要な、言葉に合うリズムやいろいろな声の出し方を決めたり音楽の仕組みを用いたりして、即興的に声やリズムを選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付けて音楽をつくっている。</p>	<p>声の音色、言葉の抑揚やリズム、その重なりや音楽の仕組みを聴き取り、それらが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考え、即興的に声の出し方や言葉を選んだり音楽の仕組みを使って組み合わせたりして、音楽づくりの様々な発想を得ている。</p>	<p>声の音色、言葉の抑揚やリズム、そのつなげ方や重ね方のよさや面白さに興味・関心をもち、声や言葉の響きを生かした音楽活動を楽しみながら声や言葉によるアンサンブルを即興的につくる学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。</p>

◆旋律のまねっこからまとまりのある旋律づくりへ (p.50～55)

評価の進め方

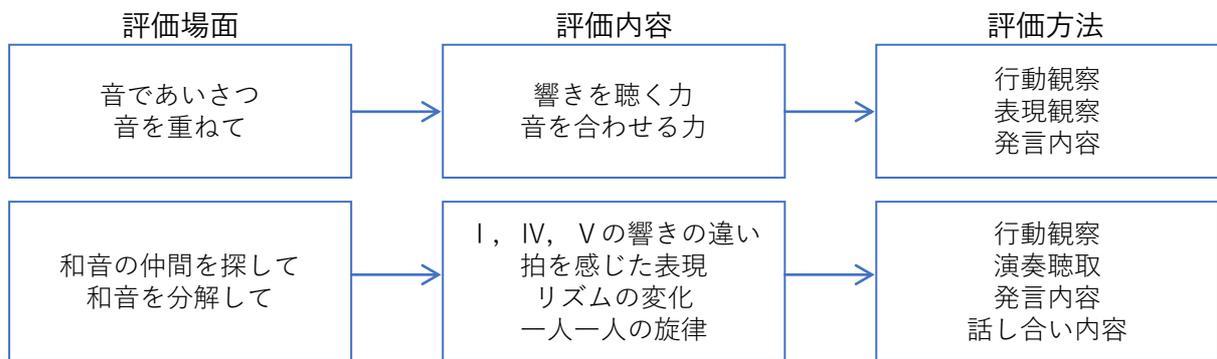


評価規準の設定例

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
低学年	<p><b>知</b> 2音～3音のつなげ方や4・8拍のフレーズの特徴について、それらが生み出す面白さと関わらせて気付いている。</p> <p><b>技</b> 発想を生かした表現をするために必要な、2音～3音を使い、終わり方を決めて短い旋律をつくる条件で、即興的に音を選んだりつなげたりして表現する技能を身に付けて音楽をつくっている。</p>	<p>旋律やフレーズ、反復や呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取って、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考え、即興的に選んだ音をつなげて旋律遊びをし、旋律をつくる発想を得ている。</p>	<p>2音～3音をつなげた旋律やその終わり方のよさや面白さに興味・関心をもち、旋律遊びをしながら即興的に旋律をつくる学習に友達となかよく楽しんで取り組もうとしている。</p>
中学年	<p><b>知</b> 3音～5音の旋律や4・8拍のフレーズのつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さと関わらせて気付いている。</p> <p><b>技</b> 発想を生かした表現をするために必要な、決められた音で4・8拍の旋律をつくる条件で、即興的に音を選択したり組み合わせたりして旋律をつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。</p>	<p>旋律やフレーズ、音の重なり、反復や呼びかけとこたえ、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取って、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考え、即興的に音を選んだりつなげたりして旋律をつくり、音楽づくりの発想を得ている。</p>	<p>旋律の音のつなげ方や旋律のまとまりのよさや面白さに興味・関心をもち、旋律の特徴を生かした音楽活動を楽しみながら、旋律をつくったり友達とつなげたり重ねたりする学習に進んで取り組もうとしている。</p>
高学年	<p><b>知</b> 音階の音を使った旋律や8拍のフレーズのつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さと関わらせて理解している。</p> <p><b>技</b> 発想を生かした表現をするために必要な、音階の音を使い、8拍のまとまりのある旋律をつくったり音楽の仕組みを用いたりする条件で、即興的に音を選択したり組み合わせたりして旋律をつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。</p>	<p>旋律やフレーズ、音階や音の重なり、音楽の仕組みを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取って、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考え、即興的に旋律を組み合わせることを通して、音楽づくりの様々な発想を得ている。</p>	<p>音階の音を使ったり旋律のまとまりを意識したりする旋律づくりのよさや面白さに興味・関心をもち、音楽の仕組みを生かした旋律をつくる音楽活動を楽しみながら即興的にまとまりのある音楽をつくる学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。</p>

◆音の重なりから和音の響きへ (p.56~61)

評価の進め方



評価規準の設定例

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
低学年	<p><b>知</b>音や重なる音の響きについて、それらが生み出す面白さと関わらせて気付いている。</p> <p><b>技</b>発想を生かした表現をするために必要な、与えられた音に音を重ねる条件で、即興的に音を選んで表現する技能を身に付けて音楽をつくっている。</p>	<p>音色や音の響き、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取って、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考え、即興的に与えられた音に音を重ねる和音遊びをして、音楽づくりの発想を得ている。</p>	<p>重なる音の響きのよさや面白さに興味・関心をもち、和音遊びをしながら、即興的に教師や友達の音に、自分が選んだ音を重ね合わせる学習に楽しんで取り組もうとしている。</p>
中学年	<p><b>知</b>重なる音の響きやそれらの組合せの特徴について、それらが生み出すよさや面白さと関わらせて気付いている。</p> <p><b>技</b>発想を生かした表現をするために必要な、与えられた音に1音~2音の音を重ねたり和音をつくったりすることを条件に、即興的に音を選んだり重ねたりして表現する技能を身に付けて音楽をつくっている。</p>	<p>音色や音の響き、音の重なりや和音の響きを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取って、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考え、即興的に音を重ねたり和音をつくったりして、音楽づくりの発想を得ている。</p>	<p>重なり合う音の響きや和音の響きのよさや面白さに興味・関心をもち、音の重なりを感じ取る音楽活動を楽しみながら、即興的に与えられた音に音を重ねたり和音をつくったりする学習に進んで取り組もうとしている。</p>
高学年	<p><b>知</b>重なる音の響きや、和音の構成音のつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さと関わらせて理解している。</p> <p><b>技</b>発想を生かした表現をするために必要な、和音の構成音を使うことを条件に、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付けて音楽をつくっている。</p>	<p>音色や音の響き、音の重なりや和音とその移り変わり、音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取って、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考え、即興的に音を重ねたり和音の構成音を使って旋律をつくったりすることを通して、音楽づくりの様々な発想を得ている。</p>	<p>和音とその移り変わりや和音の構成音を使った旋律のよさや面白さに興味・関心をもち、和音の変化を生かした音楽活動を楽しみながら、即興的に和音をつくったり和音の構成音から旋律をつくったりする学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。</p>

題材の評価規準		
知識・技能 【知・技】	思考・判断・表現 【思・判・表】	主体的に学習に取り組む態度 【態】
①旋律のつなげ方の特徴について、そのつなげ方が生み出す面白さと関わらせて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、反復や呼びかけとこたえを用いて、音楽をつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。	①旋律を聴き取り、言葉と旋律や、旋律と拍との関わり合いによって生み出されるよさや面白さを感じ取り、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考え、フレーズに気を付けて音の上がり下がり工夫し、どのような旋律をつくるかについて思いをもっている。	①言葉と旋律との関わりによる音の上がり下がりに興味・関心をもち、わらべうた遊びを楽しみながら、旋律をつくる学習に楽しんで取り組んでいる。

<b>【第1時】</b> わらべうたの旋律に親しみ、歌ったり遊んだり旋律をつくったりする。		
●いろいろなわらべうたで遊び、わらべうたの旋律に親しむ。		
●音の上がり下がりに気を付けて、いろいろな歌い方で歌う。		
【態①】〈表情観察, 表現観察〉		
[Aと判断するポイント] ・積極的に友達を誘って手遊びを楽しんだり、言葉の抑揚に合わせていろいろな言葉の歌い方を試したりしている。	[Cになりそうな子供への支援] ・遊び方の手助けをしたり、一緒に歌ったりする。 ・教師や友達のまねをして歌うように促す。	
<b>【第2時】</b> 拍を感じ取りながら、音の上がり下がりやフレーズに気を付けて旋律をつくる。		
●拍を感じ取って、8拍のまとまりで旋律をつくる。		
●「それからどうした」の呼びかけにこたえる言葉を考え、音の上がり下がり工夫して旋律をつくる。		
【思・判・表①】〈表現観察, 発言内容〉		
[Aと判断するポイント] ・拍を十分に意識し、いろいろ試しながら音の上がり下がりに気を付けて、言葉に合う旋律をつくり、どの旋律がよいかよく考えてつくっている。	[Cになりそうな子供への支援] ・教師が言葉や歌い方を示し、まねをしたり、示された例の中から選んだりするように助言する。 ・近くで拍打ちをしながら一緒につくったり、友達の歌い方を聴いたりするように促す。	
<b>【第3時】</b> 拍を感じ取りながら、友達と協力し、旋律をつないでまとまりのある音楽をつくる。		
●拍を感じ取りながら、グループで旋律をつないでまとまりのある音楽をつくる。		
●つくった作品を発表し、互いに聴き合う。		
【知・技①】〈発言内容, 表現観察〉		
[Aと判断するポイント] ・言葉と音の上がり下がりの関わりを十分に理解し、いろいろな歌い方でつくっている。 ・全体の流れをしっかりとつかみ、友達の表現をよく聴き、拍にのってタイミングよくつなげて表現している。	[Cになりそうな子供への支援] ・いろいろなこたえの言葉の例を示し、自分の言葉を決められるようにする。 ・一緒に歌いながら、決めた言葉の旋律をつくったり、木琴の伴奏を聴いて拍を感じるように促したりする。 ・まとめ方の掲示を見て順番を確認したり、つなげるタイミングの合図等の声掛けをしたりする。	

題材の評価規準		
知識・技能 【知・技】	思考・判断・表現 【思・判・表】	主体的に学習に取り組む態度 【態】
<p>①体を使って出す音やリズムの特徴について、それらが生み出すよさや面白さと関わらせて気付くとともに、発想を生かした表現をするために必要な、「もとのリズム」の仕組みに基づいて、即興的に拍にのってリズムをつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。</p> <p>②体を使って出す音や、リズムパターンのつなげ方や重ね方の特徴について、それらのよさや面白さと関わらせて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、反復や変化を用いて、体を使って出す音の音色を生かしたリズムアンサンブルをつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。</p>	<p>①体を使って出す音の音色、リズムの反復や変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考え、拍にのって即興的にリズムの組合せを工夫し、リズムパターンをつくる発想を得ている。</p> <p>②リズムパターンの特徴、反復や変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考え、体を使って出す音の音色を生かして「もとのリズム」と「自分や友達のリズム」を組み合わせ、どのようにまとまりのあるリズムアンサンブルをつくるかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>①体を使って出す音やリズムパターンのよさや面白さに興味・関心をもち、音やリズムの音楽を楽しみながら、即興的にリズムパターンをつくる学習に楽しんで取り組もうとしている。</p> <p>②体を使って出す音やリズムパターンの特徴、反復や変化のよさや面白さに興味・関心をもち、リズムパターンを組み合わせる音楽活動を楽しみながら、「もとのリズム」を生かしてリズムアンサンブルをつくる学習に友達と協力して進んで取り組もうとしている。</p>

**【第1時】** 拍を感じ取り、体から生まれるいろいろな音を試しながら、即興的なリズム表現をしたり、「もとのリズム」の仕組みを生かして、「自分のリズム」をつくったりする。

●体を使って出す音の響きを感じ取りながら、即興的にリズムをつくる。

**【態①】** 〈発言内容、表情観察、表現観察〉

[Aと判断するポイント]

・体を使って出すいろいろな音を探し、よりよい音が出るように何度も試したり、即興的にリズムをつくって反復したり変化したりする活動に積極的に取り組もうとしている。

[Cになりそうな子供への支援]

・教師がそばに行き、手助けしながら一緒につくる。

●「もとのリズム」の仕組みを生かして、「自分のリズム」をつくる。

**【思・判・表①】** 〈発言内容、表現観察〉

[Aと判断するポイント]

・多くの音の出し方やリズムを試し、つくっているリズムのよさや面白さが伝わるように何度も考え、リズムづくりの発想を深めている。

[Cになりそうな子供への支援]

・友達の表現を模倣したり、教師が例示したものを参考にしたりしてつくるように促す。

**【第2時】** 拍を感じ取って、つくったリズムを表現したり、グループでリズムアンサンブルをつくったりする。

●拍を感じ取って、「自分のリズム」を表現し、「友達のリズム」とつなげる。

**【知・技①】** 〈表現観察、リズムカード、発言内容〉

第2章

<p>[Aと判断するポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体を使って出す音をよく響かせ、「もとのリズム」の仕組みを十分に生かして、効果的にリズムを組み合わせてつくっている。</li> <li>・全て自分の力でリズム譜をつくっている。</li> </ul>	<p>[Cになりそうな子供への支援]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・拍を感じられない子供には、近くで拍を打つようにする。</li> <li>・「自分のリズム」が分からなくなってしまう子供には、リズム譜を指差したり一緒に打ったりする。</li> <li>・リズム譜をつくることができない子供には、一緒につくったり友達に応援してもらったりする。</li> </ul>	
<p>●互いのリズムを聴き合いながら、グループでリズムアンサンブルをつくる。  <b>【思・判・表②】</b>〈発言内容、表現観察、ワークシート〉</p>		
<p>[Aと判断するポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分や友達のリズムパターンのよさや面白さを十分につかみ、みんなのリズムが生きるように、ルールに示されていないつなげ方も考えたり試したりしながら、どのようにまとまりのあるリズムアンサンブルをつくるかについて、明確な思いや意図をもっている。</li> </ul>	<p>[Cになりそうな子供への支援]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の考えに賛成・反対が言えるようにし、また、反対ならばどうしたらよいか試しながら考えるように助言する。</li> <li>・子供の思いを引き出すように一緒に考え、こうしたいという思いをもてるように声掛けや例示をしたりする。</li> </ul>	
<p><b>【第3時】</b>グループでつくったリズムアンサンブルを聴き合い、そのよさや面白さを共有する。</p>		
<p>●拍を意識し、つくったリズムアンサンブルを表現して、聴き合う。  <b>【知・技②】</b>〈表現観察、発言内容、ワークシート〉  <b>【態②】</b>〈発言内容、表情観察、表現観察〉</p>		
<p><b>【知・技②】</b></p>	<p>[Aと判断するポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体を使った音の音色に十分に気を付けながら、自分や友達のリズムパターンの組合せの特徴についてよく気付き、思いや意図に沿って反復と変化を効果的に活用してリズムアンサンブルをつくっている。</li> </ul>	<p>[Cになりそうな子供への支援]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体を使って出す音が響かない子供には、打ち方を試しながら、よい音を見つけるように促す。</li> <li>・友達の意見を聞きながら、リズムパターンの組合せの特徴に気付くように促し、友達と一緒に反復や変化を活用してリズムアンサンブルをつくるように助言する。</li> </ul>
<p><b>【態②】</b></p>	<p>[Aと判断するポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体を使って出す音やリズムパターンの特徴、反復や変化のよさや面白さに強い興味・関心を持ち、友達の考えを取り入れながら「もとのリズム」を生かしたリズムアンサンブルづくりに集中して積極的に取り組もうとしている。</li> </ul>	<p>[Cになりそうな子供への支援]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムアンサンブルができるまで粘り強く学習に取り組めるように、つくったリズムのよさや面白さを認めるようにする。</li> </ul>

題材の評価規準		
知識・技能 【知・技】	思考・判断・表現 【思・判・表】	主体的に学習に取り組む態度 【態】
<p>①音階の構成音やそれらの組合せの特徴について、それらが生み出すよさや面白さと関わらせて理解し、発想を生かした表現をするために必要な、設定されたリズムで、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付けて旋律をつくっている。</p> <p>②旋律のつなげ方の特徴を、そのよさや面白さと関わらせて理解し、思いや意図に合った表現をするために必要な、反復や呼びかけとこたえ、変化を用いて、音楽をつくる技能を身に付け、音の上がり下がりや終止音を意識した旋律をつくっている。</p>	<p>①日本の音階や旋律、リズムや拍を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりを考え、即興的に音の上がり下がりやに気を付けて短い旋律をつくってつなげ、旋律づくりの様々な発想を得ている。</p> <p>②日本の音階を使った旋律や反復、呼びかけとこたえ、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりを考え、友達の旋律とのつなげ方を工夫し、どのように全体のまとまりを意識した旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>①日本の音階による旋律に興味・関心をもち、日本の音階でつくる旋律の特徴を生かす音楽活動を楽しみながら、旋律をつくったりつなげたりする学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。</p>

**【第1時】** 日本の音階のよさや特徴を感じ取りながら、旋律の上がり下がりや、終わりの音を工夫して、2小節の旋律をつくる。

●ミファラシドの音階の音を確かめる。

●設定されたリズムで即興的に旋律をつくる。

**【知・技①】** 〈発言内容、表現観察〉

[Aと判断するポイント]

・日本の音階の特徴を生かして音の上がり下がりやを様々に試して演奏したり、友達の旋律をよく聴き、旋律の音の動きに気を付けてつなげたりしている。

[Cになりそうな子供への支援]

・教師のまねをしたり友達に応援してもらったりして、つくったりつなげたりする。  
・つなげるときは、友達の旋律を模倣するように伝える。

●ペアになって、タンタタン・のリズムで2小節の旋律をつくり、つなげる。

**【思・判・表①】** 〈発言内容、表現観察〉

[Aと判断するポイント]

・友達の旋律をよく聴き、旋律の音の動きに気を付けながら、いろいろなつなげ方を試し、旋律のつなげ方の発想を広げている。

[Cになりそうな子供への支援]

・教師が例示したり、友達の表現を模倣したりしてつくるように促す。  
・友達と話し合いながらつくってもよいことを助言する。

●タタタタン・のリズムでも旋律をつくり、つなげる。

**【第2時】** 見通しをもち、音楽の仕組みを用いて、つながりが生み出すよさを感じ取りながら、友達の旋律と組み合わせ、まとまりのある音楽をつくる。

● 団と団の旋律をつなぎ、4小節の旋律をつくる。

**【思・判・表②】** 〈発言内容, 表現観察, ワークシート〉

[Aと判断するポイント]

・自分や友達の考えをまとめ、音楽の仕組みをいろいろ試しながら活用し、終わりの音や全体のまとまりを意識した旋律に向けて思いや意図を明確にしている。

[Cになりそうな子供への支援]

・一緒に考え、自分の思いや意図を引き出すように言葉掛けや例示をしたり、ペアで話し合っつくる場を設定したりする。

● 他のグループの演奏を聴いて、音の動きやつなげ方のよさを認め合い、自分たちの旋律づくりに生かす。

**【知・技②】** 〈表現観察, ワークシート〉

[Aと判断するポイント]

・友達や自分の旋律の特徴をしっかりと把握し、反復、呼びかけとこたえ、変化のよさや面白さを確かめながら、自分たちの旋律の特徴と関わらせて活用し、それぞれの旋律が引き立つように全体のまとまりを意識した旋律をつくっている。

[Cになりそうな子供への支援]

・友達と考えながら、旋律をつくったりつなげたりしてもよいことを伝え、うまくつなげられないときは、友達の演奏を聴き取り、模倣するように助言する。

**【第3時】** つくった旋律を聴き合い、そのよさや面白さを共有する。

● つながりが生み出すよさを感じ取りながらつくった旋律を表現し、聴き合う。

**【態①】** 〈発言内容, 表現観察, ワークシート〉

[Aと判断するポイント]

・積極的に日本の音階を箏（楽器）で弾いてみたり、音の上がり下がりの効果を確認しながら一人でいくつも旋律をつくったりし、友達の旋律のよさや面白さを明確にしながらか旋律をつなげてまとまりのある旋律をつくろうとしたり、他のペアの旋律のよさや面白さ、美しさなどを見つけて、自分たちの表現にも生かそうとしたりしている。

[Cになりそうな子供への支援]

・教師がそばで手助けしながら一緒につくったり友達のまねをしてつくってもよいことを提案したりし、他の友達の旋律にも耳を傾けるように助言する。

題材の評価規準		
知識・技能 【知・技】	思考・判断・表現 【思・判・表】	主体的に学習に取り組む態度 【態】
<p>①音のつながり方の特徴を、表したいイメージと関わらせて理解し、創意工夫を生かした表現でリズムや旋律をつくるために必要な、与えられたリズムや拍子、ハ長調の音階を使う条件に沿って音を選択したり組み合わせたりして、リズムや旋律をつくる技能を身に付け、創作で表している。</p> <p>②リズムや旋律の特徴及び反復、変化、対照などの構成上の特徴を、表したいイメージと関わらせて理解し、創意工夫を生かした表現で旋律をつくるために必要な、動機を活用して一部形式の音楽をつくる課題に沿って、動機やそれに続く旋律をつくる技能を身に付け、創作で表している。</p>	<p>①音符や拍子、リズム、ハ長調の音階を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりを考え、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。</p> <p>②動機の働きや動機に続く旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりを考え、自分なりのイメージをもち、反復、変化、対照などの構成を用いて一部形式の旋律をつくることに思いや意図をもっている。</p>	<p>①音符や拍子、リズム、ハ長調の音階による音楽が生み出す雰囲気や表情などに関心をもち、リズムづくりや4分音符のみの旋律づくりを楽しみながら、主体的・協働的に創作の学習に取り組もうとしている。</p> <p>②動機の働きや、動機に続く旋律の特徴が生み出す雰囲気や表情などに関心をもち、感じ取ったことを生かして反復を用いて動機に続く2小節をつくることや、残り4小節を変化と対照を用いて旋律をつくる活動を楽しみながら、主体的・協働的に創作の学習に取り組もうとしている。</p>

<p><b>【第1時】</b> 4分音符と8分音符、4分休符を使って自分なりのリズムを工夫する。</p>		
<p>●リズム遊びをする。</p>		
<p>●4分音符や8分音符、4分休符について復習する。</p>		
<p>●4分音符や8分音符、4分休符を使ったリズムを4分の4拍子で2小節つくる。</p>		
<p><b>【態①】</b>〈発言内容、学習プリント〉</p>		
<p>[Aと判断するポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>条件の中で多くのリズムをつくり創作活動を十分に楽しみ、積極的にグループ交流して、いろいろなリズムの特徴に関心が広がっている。</li> <li>自分がつくったリズムに対して、思い浮かぶイメージを様々な言葉で表現しようとしている。</li> </ul>	<p>[Cになりそうな子供への支援]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師がつくったリズムについてどんな感じがするか考えるように促し、それを言葉で記述するように伝える。</li> </ul>	
<p>●全体で何人かのリズムを聴き合い、学習を振り返り、旋律づくりの意欲をもつ。</p>		
<p><b>【知・技①】</b>〈発言内容、学習プリント〉</p>		
<p>[Aと判断するポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>条件の中でより多くのリズムをつくり、的確にワークシートに音符等を記入している。</li> </ul>	<p>[Cになりそうな子供への支援]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個人用のリズムカードを手元で見ながら、好きなカードを選び、リズムも書き写すように促す。</li> </ul>	
<p><b>【第2時】</b> ハ長調の音階の特徴を生かして、自分なりの旋律を工夫する。</p>		
<p>●長音階と短音階の特徴について確認する。</p>		

## 第2章

- 長音階の特徴を生かして、旋律づくりを工夫する。

### 【思・判・表①】〈学習プリント，発言内容〉

#### [Aと判断するポイント]

- ・ハ長調の音階の特徴を損なわずに様々な音の組合せを試行錯誤し、それが作品に十分に反映されている。

#### [Cになりそうな子供への支援]

- ・教師がいくつかの音のつながり方を示し、気に入ったものを選ぶことができるようにする。

**【第3時】** 動機の特徴について理解し、つくりたい旋律のイメージをもちながら、動機をもとにした反復や変化の方法で旋律を工夫する。

- 「動機」の特徴について学習する。

- 教師が示した「動機」を反復させて旋律を工夫する。

- 「動機」に続く旋律をどのようなイメージでつくるか、自分の考えをもつ。

### 【態②】〈行動観察，発言内容〉

#### [Aと判断するポイント]

- ・積極的に発言し、どのような続く旋律にするかについての発言の内容が的確かつ豊かである。
- ・集中して試行錯誤を繰り返す、自分のイメージに旋律が近づくように、交流した意見を参考にしながらよりよい作品を目指して非常に粘り強く取り組もうとしている。

#### [Cになりそうな子供への支援]

- ・リズムを決めるように促し、カードを手元に置いて好きなリズムを選ぶとともに、選んだリズムに教師が価値付けして支援する。

- 変化について学習する。

- 自分なりのイメージを生かして「動機」を変化させ、旋律を工夫する。

### 【思・判・表②】〈発言内容，学習プリント〉

#### [Aと判断するポイント]

- ・自分のイメージを豊富な言葉で具体的に説明し、つくった旋律への思いや意図が明確である。

#### [Cになりそうな子供への支援]

- ・鑑賞用の言葉カードや友達の言葉から自分のイメージに近いものを選ぶように促す。

**【第4時】** 自分のイメージを生かしながら、動機と対照的になるように旋律を工夫する。

- 対照について学習し、旋律を工夫する。

- つくった作品を発表し、互いに聴き合う。

### 【知・技②】〈学習プリント，発言内容，演奏聴取〉

#### [Aと判断するポイント]

- ・つくった旋律が創作のルールに則っており、自分なりのイメージと今まで学んだ音楽を形づくっている要素とを結び付けて具体的な言葉で説明している。また、その作品に工夫が見られ音楽としてまとまりがあり、説明と作品のよさが一致している。

#### [Cになりそうな子供への支援]

- ・第1時でつくったリズムから対照になるリズムを選ぶようにし、教師が示した音のつながりから気に入ったものを選び、学習プリントに記入するように助言する。

題材の評価規準		
知識・技能 【知・技】	思考・判断・表現 【思・判・表】	主体的に学習に取り組む態度 【態】
<p>①打楽器の音の特徴について、それらが生み出す面白さに関わらせて気づき、発想を生かした表現をするために必要な、音の響きを生かして8拍のまとまりを感じるリズムをつくる条件で、即興的に音を選んでリズムを表現する技能を身に付けて音楽をつくっている。</p> <p>②音やリズムのつなげ方の特徴について、それらが生み出す面白さに関わらせて気づき、思いに合った表現をするために必要な、反復や呼びかけとこたえを用いて、自分なりにまとまった音楽をつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。</p> <p>③曲想と打楽器の音色やリズム、強弱、反復や呼びかけとこたえなどとの関わりについて気づいている。</p>	<p>①打楽器の音色やその響き、拍などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考え、即興的に打楽器の響きを生かした8拍のリズムをつくることを通して、リズムづくりの発想を得ている。</p> <p>②打楽器の音色やリズム、拍の有無、反復や呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考え、音やリズムのつなげ方を工夫し、どのような音楽にするかについて思いをもっている。</p> <p>③打楽器の音色やその響き、リズム、強弱、反復や呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考え、曲や演奏の楽しさを見だし、曲全体を味わって聴いている。</p>	<p>①打楽器の音色や響きの違いのよさや面白さに興味・関心をもち、音遊びをしながら、即興的に音を探して表現する学習に楽しんで取り組もうとしている。</p> <p>②打楽器の音色やその響き、拍の有無、反復や呼びかけとこたえなどのよさや面白さに興味・関心をもち、リズムをつくったり拍節的部分と拍節的でない部分とのつなげ方を工夫したりしながら、友達と協力して楽しく打楽器の音色を生かした音楽づくりの学習に取り組もうとしている。</p>

**【第1時】** 自分の楽器から様々な音色を出すために演奏の方法を工夫し、気に入った音を友達とつなげたり重ねたりして音楽にする。

●一つの楽器から様々な音色を見付け、拍節的でない音楽をつくる。

**【態①】** 〈表情観察，発言内容〉

[Aと判断するポイント]

- ・音色の特徴をつかんで言葉で表したり、自分の好きな音色を見付けようと打つ場所や打つもの、打ち方を変えたりしながら、出る音の違いを楽しもうとしている。
- ・友達の音と自分の音を重ねたり、音で会話したりして楽しんで活動しようとしている。

[Cになりそうな子供への支援]

- ・打つ場所を変えたり、打つ強さを変えたりして一つの楽器から2種類の音色の違う音を出せるように一緒に試す。

**【第2時】** 楽器の音色の違いを感じ取り、リズムを選択し演奏の方法を工夫して自分のリズムをつくる。

●自分の楽器の響きの長さの特徴を生かして8拍のリズムをつくる。

【思・判・表①】〈演奏聴取, ワークシート〉

【知・技①】〈演奏聴取, 表現観察, ワークシート〉

【思・判・表①】	<p>[Aと判断するポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じリズムカードをどこに使用するか音で試しながら、まとまりが感じられるリズムについてはっきりとした思いをもっている。</li> <li>・リズムにぴったりと合う音色を出すように、打楽器の演奏の仕方を試しながらリズムをつくっている。</li> </ul>	<p>[Cになりそうな子供への支援]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのカードを2回使うとよいのか試しながら一緒に考える。</li> </ul>
【知・技①】	<p>[Aと判断するポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・打楽器の音の特徴をよくつかみ、のびる音や細かい音を使い分けて、即興的にまとまりのあるリズムを表現している。</li> <li>・2分音符と8分音符の違いを使い分け、響きの違いを生かして即興的に音を選んで表現している。</li> </ul>	<p>[Cになりそうな子供への支援]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ打楽器の友達の模倣をしたり、教師が例示したりしてつくるように助言する。</li> </ul>

**【第3時】** それぞれがつくったリズムを組み合わせながら、強弱や音の重なり方を工夫して打楽器の音楽をつくる。

●自分のリズムを友達のリズムとつなげたり、重ねたりする。

【思・判・表②】〈演奏聴取, ワークシート, 発言内容〉

<p>[Aと判断するポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の音や友達の音をよく聴き、最後までそれぞれの響きの特徴が生かされているかを注意深く確かめながらつなげ方について発言し、自分たちのグループの音楽を楽しんで仕上げようとしている。</li> </ul>	<p>[Cになりそうな子供への支援]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの組合せがいちばんよいかを考えるように助言する。</li> </ul>
--	---

**【第4時】** 音楽を工夫しながら拍節的でない部分と、拍節的な部分とをつなげて演奏し、発表する。

●第1時でつくった拍節的でない部分と第3時でつくった拍節的な部分をつなげて演奏する。

【知・技②】〈発言内容, ワークシート, 演奏聴取〉

<p>[Aと判断するポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの打楽器の音の高さや強弱、リズムの選び方から、つなげ方や重ね方の特徴にしっかりと気付き、反復や呼びかけとこたえを効果的に使って、拍節的な部分と拍節的でない部分をつなげて音楽をつくっている。</li> </ul>	<p>[Cになりそうな子供への支援]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・つなげ方や重ね方について、友達の意見をどう思うかを聞き取りながら気付くように促す。</li> <li>・どこで音を鳴らすのか、拍節的な部分と拍節的でない部分をワークシートで確かめ、Aさんの強さ等を思い起こしながら、こたえる音を確認するなどして、音楽をつくることができるよう寄り添う。</li> </ul>
---	---

●音色を工夫した打楽器の音楽を表現し、聴き合う。

【態②】〈発言内容, 表情観察〉

<p>[Aと判断するポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・打楽器の音色を生かした音楽をつくろうと繰り返し練習し、発表に向けて拍節的な部分と拍節的でない部分のつなげ方を友達と一緒に確認しながら、楽しんで音楽をつくり、発表しようとしている。</li> <li>・グループの音楽の工夫した点や、そのよさについて発言している。</li> </ul>	<p>[Cになりそうな子供への支援]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・つなげ方や重ね方について、友達の意見をどう思うかを聞き取りながら、自分の音楽のよさや考えを伝えるように助言し、音楽をつくったり発表したりすることに参画できるように促す。</li> </ul>
---	--

**【第5時】**「だがつき パーティー」を聴き、打楽器の音色のよさや面白さを味わい、リズムの重なりや反復に気付き、自分たちの作品を振り返る。

●打楽器の音色に気を付けて音楽を聴く。

**【知③】**〈発言内容, 模擬演奏〉

[Aと判断するポイント]

- ・登場する打楽器の音色に真っ先に気付き、そのリズムや強弱、反復や呼びかけとこたえの仕方がどのようになっているのか、よく聴き取っている。

[Cになりそうな子供への支援]

- ・自分と同じ楽器があったかどうかを手掛かりに再度聴くように促す。
- ・楽器を演奏するまねをして、反復等にも気付くようにする。

●打楽器の音色に気を付けて聴き、その面白さを感じ取って聴く。

**【思・判・表③】**〈模擬演奏, 発言内容〉

[Aと判断するポイント]

- ・打楽器の音色や響きの特徴、反復、呼びかけとこたえの仕方が、どのように音楽のよさや面白さにつながっているかをよく考えて、曲や演奏のよいところについて発言している。
- ・自ら楽器を模擬演奏するなどして、曲や演奏のよさをしっかりとらえている。

[Cになりそうな子供への支援]

- ・自分と同じ楽器があったかどうかを手掛かりに再度聴くように促す。
- ・子どもと一緒に楽器の模擬演奏をしたり、友達の模擬演奏のまねをしたりして、曲や演奏のよさや面白さを共有できるようにする。

題材の評価規準		
知識・技能 【知・技】	思考・判断・表現 【思・判・表】	主体的に学習に取り組む態度 【態】
<p>①打楽器の音の響きの特徴について、それらが生み出すよさや面白さと関わらせて気づき、発想を生かした表現をするために必要な、図形に合う音を出す条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付けて音楽をつくっている。</p> <p>②音のつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さと関わらせて気づき、思いや意図に合った表現をするために必要な、反復、呼びかけとこたえ、変化などを用いて音楽をつくる技能を身に付けてつくっている。</p> <p>③曲想と打楽器の音色や音の重なり、反復や呼びかけとこたえ、変化などとの関わりについて気付いている。</p>	<p>①打楽器の音色とその響きを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考え、打楽器の組合せや音の出し方を工夫して即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得ている。</p> <p>②強弱や音の重なり、反復や呼びかけとこたえ、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考え、図形の楽譜を使って音楽の構成を工夫し、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図を持っている。</p> <p>③打楽器の音色や音の重なり、反復や呼びかけとこたえ、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考え、曲や演奏のよさを見だし、曲全体を味わって聴いている。</p>	<p>①図形の楽譜と打楽器の音の特徴との関わりに興味・関心を持ち、図形の楽譜に合う音を探して即興的に表現する活動を楽しみながら、友達と協力し進んで音楽づくりの学習に取り組もうとしている。</p> <p>②打楽器の音色を生かした音楽のよさや面白さに興味・関心を持ち、反復や呼びかけとこたえ、変化を活用した音楽をつくったり聴いたりする活動を楽しみながら、友達と協力し進んで打楽器の音楽をつくり音楽を鑑賞する学習に取り組もうとしている。</p>

**【第1時】** 図形を手掛かりとし、打楽器の音の特徴や音色から発想を得て、即興的に表現する学習に興味・関心をもつ。

● 図形を手掛かりとして、打楽器の音の特徴や音色から発想を得て、即興的に表現する。

**【知・技①】** 〈発言内容、行動観察、演奏聴取〉

[A と判断するポイント]

・ 打楽器の音の特徴や音色をしっかりと把握し、図形にぴったりな音を、音の出し方とともに選択して即興的に表現している。

[C になりそうな子供への支援]

・ 教師や友達と一緒に、図形に合う音を探すようにする。  
・ 音の変化が分かりやすい打楽器を推奨する。

● 図形カードを手掛かりとして、音の出し方やつなぎ方を工夫する。

**【態①】** 〈発言内容、表情観察、行動観察〉

第2章

<p>[Aと判断するポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図形の楽譜と打楽器の音の特徴や音色との関わりに強く興味・関心を示し、図形に合い、打楽器の音の特徴や音色を生かした音の出し方をいろいろと試し、即興的によりよい表現を見付けようとしている。</li> <li>・打楽器の音色の効果考えたカードの組み合わせ方について、積極的に意見を出し、友達と協力しながら工夫しようとしている。</li> </ul>	<p>[Cになりそうな子供への支援]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師がそばへ行き、図形に合う音の出し方を例示したり、ペアの友達の意見を取り入れながらつくるように促したりする。</li> </ul>
<p><b>【第2時】</b> 打楽器の音の特徴や音色を生かした音の組合せを考えたり、音楽づくりのルールを知り、どのように音楽をつくるか、見通しをもったりする。</p>	
<p>●打楽器の音の特徴や音色、音の組合せを考えてグループの音楽に使う楽器を選ぶ。</p>	
<p>●音楽づくりのルールを知り、どのように音楽をつくるか見通しをもつ。</p>	
<p><b>【思・判・表①】</b> 〈発言内容、行動観察、演奏聴取〉</p>	
<p>[Aと判断するポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・打楽器の音の特徴や音色をしっかりと聴き、それらを生かした組合せになるようによく考え、音の出し方をいろいろと試しながら音を組み合わせたり発言したりし、よりよい表現に向けて発想を広げたり深めたりしている。</li> </ul>	<p>[Cになりそうな子供への支援]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな楽器を使いたいかに相談にのったり、同じグループの友達に楽器選びのアイデアを出してもらったりする。</li> <li>・音の組合せについて、友達の考えを参考にしながら、自分の考えをもてるように促す。</li> </ul>
<p><b>【第3時】</b> 打楽器の音の特徴や音色、強弱、音の重ね方、反復や変化を生かして、まとまりのある音楽をつくる。</p>	
<p>●音の重ね方、反復や変化などを生かして、グループの音楽をつくる。</p>	
<p><b>【思・判・表②】</b> 〈発言内容、演奏聴取、グループの構成図〉</p>	
<p><b>【知・技②】</b> 〈発言内容、グループの構成図、演奏聴取〉</p>	
<p><b>【思・判・表②】</b></p>	<p>[Aと判断するポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・つなげ方や重ね方について何度も試しながら考え、それぞれの打楽器の音が生きてまとまりのある音楽について思いや意図をしっかりともち、発言をしている。</li> </ul>
<p><b>【知・技②】</b></p>	<p>[Cになりそうな子供への支援]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の考えに賛成かどうかを尋ね、一緒に試しながら工夫の仕方について助言する。</li> </ul>
<p>[Aと判断するポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音のつなげ方や重ね方の特徴を具体的に言葉で表し、反復や呼びかけとこたえ、変化を効果的に活用して、図形の構成図をまとめながら、打楽器の音の特徴、強弱や間などを効果的に組み合わせ、まとまりを感じる音楽をつくっている。</li> </ul>	<p>[Cになりそうな子供への支援]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループの工夫に際して、自分の考えを話すように促す。</li> <li>・グループの工夫とその子供が担当する部分について、構成図を見ながら確認し、友達の音と自分の音とを聴き比べながらつくっていくように助言する。</li> </ul>

**【第4時】** グループの音楽を聴き合ったり、打楽器アンサンブルの音楽を聴いたりして、音色や音の重なり、反復や呼びかけとこたえなどを生かした音楽のよさや面白さを味わう。

●グループの音楽を聴き合い、互いの表現のよさを共有し合う。

**【態②】** 〈発言内容, 表情観察, 行動観察〉

[Aと判断するポイント]

- ・音のつなげ方や重ね方の特徴について高い興味・関心を示し、打楽器の音の特徴や音色を生かして音楽をつくる活動に集中し、まとまりのある打楽器の音楽をつくって積極的に発表しようとしたり、友達の演奏のよさや面白さを見付けようとしたりしている。
- ・打楽器の音色を生かした演奏を聴くに際し、そのよさや面白さを見付けようと、積極的に聴いている。

[Cになりそうな子供への支援]

- ・友達の意見を参考にしながら、考えを引き出し、音楽づくりに参画できるように支える。
- ・友達の表現について、友達の意見と同じところ、違うところを確認して、意見をもてるように助言する。
- ・打楽器の音楽に対する興味・関心がもてるように、自分が使った打楽器が聞こえるかどうかなど聴くポイントを示す。

●音色や音の重なり、反復やよびかけとこたえなどを生かした表現のよさや面白さを感じ取って聴く。

**【知③】** 〈発言内容, ワークシート, 行動観察〉

**【思・判・表③】** 〈行動観察, 発言内容, ワークシート〉

<b>【知③】</b>	<p>[Aと判断するポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想と打楽器の音の特徴や音色、音の重なり、反復や呼びかけとこたえ、変化などとの関わりについて、気付いたことが表情に現れたり、的確な発言をしたりしている。</li> </ul>	<p>[Cになりそうな子供への支援]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・打楽器の音に着目して聴くように促す。</li> <li>・友達が気付いたことと同じことがあれば、それを発表するように助言する。</li> </ul>
<b>【思・判・表③】</b>	<p>[Aと判断するポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・曲のどの部分がどのように面白いのか、音楽の仕組みと関わらせて、具体的に発言したり記述したりしている。</li> </ul>	<p>[Cになりそうな子供への支援]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子供のそばで小太鼓のリズムを打ち、聴き取りを促したり、よく聴き取っている友達のまねをさせたりする。</li> </ul>

題材の評価規準		
知識・技能 【知・技】	思考・判断・表現 【思・判・表】	主体的に学習に取り組む態度 【態】
<p>①呼吸や発音の仕方によるいろいろな声の響きや組合せの特徴について、それらが生み出すよさや面白さと関わらせて理解し、発想を生かした表現をするために必要な、50音を使って声の出し方を変えることを条件に、即興的に2音～3音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付けて音楽をつくっている。</p> <p>②いろいろな声の響きのつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さと関わらせて理解し、思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付けてつくっている。</p> <p>③曲想及びその変化と声の音色や響き、音の重なり、反復と変化などとの関わりについて理解している。</p>	<p>①互いの声の音色、リズムや強弱などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考え、即興的に異なる表情の声やその組合せを工夫することを通して、音楽づくりの様々な発想を得ている。</p> <p>②異なる表情の声の音色や響き、速度や音の重なり、音楽の仕組みを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考え、それぞれのアイデアを生かした構成を工夫し、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。</p> <p>③声の音色や響き、音の重なり、反復と変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考え、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。</p>	<p>①自分の声や友達の声の響きやその違いのよさや面白さに興味・関心をもち、即興的に50音から音を選択し声の出し方を工夫して組み合わせる活動を楽しみながら、主体的・協働的に声で音のアイデアをつくる学習に取り組もうとしている。</p> <p>②声の出し方による音色や響きの変化、音楽の仕組みを用いた音楽の構成のよさや面白さに興味・関心をもち、声の音のアイデアをつなげたり重ねたりして音楽を構成したり声の様々な表情を生かした音楽を聴いたりする活動を楽しみながら、主体的・協働的に声の音楽をつくったり鑑賞したりする学習に取り組もうとしている。</p>

【第1時】音そのものの仕組みを知り、いろいろな発声や発音の仕方を試す。

●音そのものの仕組みを知り、声で音のアイデアを試す。

【態①】〈行動観察、ワークシート〉

【Aと判断するポイント】

- ・呼吸や発音の仕方に大きな興味・関心を寄せ、いろいろな声や音を試してアイデアを出そうとしている。
- ・友達のアイデアをよく聴きながら、自分のアイデアを積極的に示したり、それぞれのアイデアを表現し合ったりしている。

【Cになりそうな子供への支援】

- ・ラ行やパ行などの発音が特徴的な音を示し、一緒にアイデアを考えるようにする。

**【第2時】** いろいろな発声や発音の仕方、それらの重ね方を試し、様々な声による音楽をつくるための見直しをもつ。

●いろいろな発声や発音の仕方を試し、声の音色を工夫する。

**【思・判・表①】** 〈発言内容, ワークシート, 表現観察〉

[Aと判断するポイント]

- ・いろいろな発音・発声を試し、自分でも新しい発声の仕方を見つけて、即興的に表情の異なる声を見いだしたり様々な組合せを考えたりして、多様な声の音のアイデアをつくっている。

[Cになりそうな子供への支援]

- ・いろいろな発音・発声を友達と一緒に試すように助言する。

●声の組合せを工夫しながら、声の重なりをつくる。

**【知・技①】** 〈発言内容, ワークシート, 演奏聴取〉

[Aと判断するポイント]

- ・基準の音の意味や声の出し方による声の響きの違いをよく理解し、即興的に基準の長さや高さ、それに基づく長短や高低の組合せでアイデアをつくっている。

[Cになりそうな子供への支援]

- ・ラ行やバ行などの発音が特徴的な音を示し、一緒にアイデアをつくるようにする。
- ・基準の長さや高さ、それに基づく長短や高低を示し、教師と一緒に試したり、友達の模倣をするように促したりする。

**【第3時】** 声の音色や、反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係を生かして、全体の構成を考えてまとまりのある音楽をつくる。

●声の音色で構成した音楽をつくる。

**【知・技②】** 〈発言内容, ワークシート, 演奏聴取〉

**【思・判・表②】** 〈発言内容, ワークシート, 表現観察〉

**【知・技②】**

[Aと判断するポイント]

- ・自分の声や友達の声の響き合いを生かし、音楽の決まりをよく理解している。
- ・全体を見直し、音楽のクライマックスを意識し、前時でつくったアイデアを生かすように音楽の決まりを効果的に用いて声の音楽をつくっている。

[Cになりそうな子供への支援]

- ・自分のアイデアだけでなく、友達のアイデアも試すように促す。
- ・全体の構成図を見ながら、どんな音楽の決まりを使っているのかを確認するように助言する。

**【思・判・表②】**

[Aと判断するポイント]

- ・自分の声の出し方や友達との声の響き合いを大切にしながら、グループの音楽のつくり方を選んだり新しく考えたりして構成を試しながらつくり、どのような音楽にするかについて、思いや意図を明確にしている。

[Cになりそうな子供への支援]

- ・友達の声をよく聴くように助言し、友達の選んだ音楽の決まりで納得がいくかどうかを確認し、友達と試したり自分の考えを伝えたりしながら音楽をつくるように助言する。

**【第4時】** グループの音楽を聴き合ったり、様々な声の表現による音楽を聴いたりして、声による音楽の多様性を味わう。

●つくった音楽を発表し聴き合う。

**【態②】** 〈発言内容, 表情観察, 演奏聴取〉

[Aと判断するポイント]

- ・声の響きの変化や音楽の決まりの使い方を手掛かりにして、より納得のいく音楽にするために練習したり、他のグループの音楽と比べて互いのよさや面白さについて発言したりしている。
- ・声の音楽に対する興味・関心を大きく広げ、鑑賞する音楽への期待を膨らませている。

[Cになりそうな子供への支援]

- ・音楽づくりへの参画の仕方を振り返りながら、考えが活かされたところやつくった声のアイデアのよさを褒め、自信をもつように促す。
- ・声で表現している音楽を聴くことを知らせ、鑑賞する音楽への興味・関心を向けるようにする。

## 第2章

●様々な表現を聴き，声による音楽の多様性を味わう。

【知③】〈発言内容，ワークシート〉

【思・判・表③】〈発言内容，ワークシート〉

【知・技③】	<p>[Aと判断するポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想と演奏者による声の表現の違いや声の重なりとの関わりを明確にとらえて，言葉で説明している。</li> </ul>	<p>[Cになりそうな子供への支援]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演奏者による声の表現の違いに着目し，一緒に表現しながら，どのように違っているかを，教師の例を参考に言葉で話すように促す。</li> </ul>
【思・判・表③】	<p>[Aと判断するポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・声の変化や表現の工夫，声の重なりをはっきりと聴き取り，曲想とどのように関わっているのか考えたり，自分たちの音楽をもとに曲や演奏のよさをとらえたりして，発言したり友達と意見交流したりしている。</li> </ul>	<p>[Cになりそうな子供への支援]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの声がいちばん気に入ったかを話すように助言し，友達の意見を聞きながら自分の感じたことをまとめるように促す。</li> </ul>

題材の評価規準		
知識・技能 【知・技】	思考・判断・表現 【思・判・表】	主体的に学習に取り組む態度 【態】
<p>①曲想とジャズ特有のリズムや楽器の音色，繰り返されるコード進行やアドリブなどとの関わりについて理解している。</p> <p>②ブルー・ノート・スケール及び音のつながり方の特徴について，表したいイメージと関わらせて理解し，創意工夫を生かした表現で旋律をつくるために必要な，ブルースのコード進行に合わせる条件に沿って音を選択したり組み合わせたりする技能を身に付け，創作で表している。</p> <p>③ジャズ特有のリズムやブルー・ノート・スケール，コール&amp;レスポンスなどの特徴，反復，変化，対照などの構成上の特徴について，表したいイメージと関わらせて理解し，創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な，ブルースのコード進行に合わせる条件に沿って音を組み合わせる技能を身に付け，創作で表している。</p>	<p>①ジャズ特有のリズムやブルー・ノート・スケールなどの特徴を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，知覚したことと感受したこととの関わりを考え，ジャズの雰囲気を生かした音楽表現を工夫し，どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。</p> <p>②ジャズ特有のリズムやブルー・ノート・スケール，コール&amp;レスポンスなどの特徴を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，知覚したことと感受したこととの関わりを考え，反復，変化，対照などの構成や全体のまとまりを工夫し，どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。</p> <p>③ジャズ特有のリズムや楽器の音色，繰り返されるコード進行やアドリブなどを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ，知覚したことと感受したこととの関わりを考え，曲や演奏について解釈したり価値を見いだしたりして，根拠をもって評価しながら，ジャズのよさや美しさを味わって聴いている。</p>	<p>①ジャズ特有のリズムや楽器の音色，繰り返されるコード進行やアドリブなどに関心を持ち，2つの演奏を聴き比べ共通点や相違点を見いだして聴く活動を楽しみながら，主体的・協働的にジャズの音楽を鑑賞する学習に取り組もうとしている。</p> <p>②ジャズ特有のリズムやブルー・ノート・スケール，反復，変化，対照などの構成上の特徴や全体のまとまりなどに関心を持ち，それらを生かして音楽表現を工夫して旋律をつくる活動を楽しみながら，主体的・協働的に創作の学習に取り組もうとしている。</p>

<p><b>【第1時】</b>演奏者の異なる2種類の演奏で「Take Five」を比較鑑賞し、ジャズの特徴を聴き取る。</p>	
<p>●クインシー・ジョーンズ・オーケストラによる演奏を聴き、音色や曲の構成と曲想との関わりを理解して聴く。</p>	
<p>●ザ・デイヴ・ブルーベック・カルテットによる演奏を聴き、音色や曲の構成と曲想との関わりを理解して聴く。</p>	
<p><b>【態①】</b>〈発言内容、ワークシート〉</p>	
<p>[Aと判断するポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>演奏している楽器の音色、ソロやアドリブ、繰り返されるコード進行に強い関心を示し、2種類の演奏の共通点と相違点を見付けようと積極的に鑑賞し、ワークシートの記入にも積極的に取り組んでいる。</li> </ul>	<p>[Cになりそうな子供への支援]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>聴き取ることのできた楽器の音色などを問い、聴き取れたことを認め励ましたり友達の発言を参考にしたりすることで、主体的に鑑賞の活動に取り組めるようにする。</li> </ul>
<p>●2種類の演奏を比較鑑賞して、共通点と相違点をまとめる。</p>	
<p><b>【知①】</b>〈発言内容、ワークシート〉</p>	
<p>[Aと判断するポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2種類の演奏の共通点や相違点を見付けながら、繰り返されるコード進行が同じ中で、演奏している楽器の音色、ソロやアドリブなどについて理解を深めている。</li> </ul>	<p>[Cになりそうな子供への支援]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コード進行をピアノで演奏し、手元を見せながら、同じコードが繰り返されていることを理解しやすくする。</li> <li>旋律を演奏している楽器の写真を示すようにする。</li> </ul>
<p><b>【第2時】</b>ブルースのコード進行に合わせて、ブルー・ノート・スケールとジャズアイテムを試し、12小節の旋律をつくる。</p>	
<p>●ブルースのコード進行とブルー・ノート・スケールを理解して、ブルー・ノート・スケールの特徴を感じ取る。</p>	
<p><b>【態②】</b>〈発言内容、表情観察、表現観察〉</p>	
<p>[Aと判断するポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ブルースのコード進行をよく聴きながら、ブルー・ノート・スケールを何度も演奏する中で、旋律形やリズムを変えてジャズらしい旋律をつくろうとし、友達の演奏もよく聴いている。</li> </ul>	<p>[Cになりそうな子供への支援]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1オクターヴの中で、上行や下行を繰り返すように促し、慣れてきたところで、範囲を広げていくように支援する。</li> </ul>
<p>●ジャズらしさを表現できるリズムの特徴を生かした音の組合せについて学ぶ。</p>	
<p><b>【知・技②】</b>〈発言内容、表現観察、演奏観察〉</p>	
<p>[Aと判断するポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ブルー・ノート・スケールやジャズアイテム等をしっかりと把握し、ブルースのコード進行によって12小節のまとまりを生かし、ジャズアイテムを適切に反復、変化させながら組み合わせている。</li> </ul>	<p>[Cになりそうな子供への支援]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ブルー・ノート・スケールやジャズアイテムを確認して理解を促す。</li> <li>取り入れたいアイテムは何か問い掛け、教師も一緒にそのアイテムを試し、先ず、最初の2小節をつくり、友達のつくっている旋律も参考にしながら続きを考えていくように支援する。</li> </ul>
<p><b>【第3時】</b>ペアで音のつながり方や重ね方を工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。</p>	
<p>●音のつながり方や重なり方について考え、工夫する。</p>	
<p><b>【思・判・表①】</b>〈発言内容、表現観察、演奏聴取、ワークシート〉</p>	
<p>[Aと判断するポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ペアの友達の旋律の特徴を知覚し、同じ音から始めたり同じジャズアイテムを使ったり、対照的な表現を取り入れたりするなど、ジャズの雰囲気が出るような演奏を試しながら、どのように旋律を</li> </ul>	<p>[Cになりそうな子供への支援]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ペアの友達の旋律の模倣をすることを試すように促し、少しずつ変化を加えられるようにしていく。</li> </ul>

## 第2章

つくるかについて明確な思いや意図をもっている。	
<b>【第4時】</b> 表現したいイメージをグループで共有し、旋律のつなげ方や組合せ方、グループ全体での構成や全体のまとまりを工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●グループで表現したいイメージを共有する。</li> <li>●共有したイメージに向けて、グループのフリーの部分の構成を考える。</li> </ul>	
<b>【思・判・表②】</b> 〈発言内容、表現観察、ワークシート〉	
<b>[A と判断するポイント]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの旋律の特徴を把握しながら、グループ全体のまとまりを工夫し、いろいろな考えやまとめ方を提案している。</li> <li>・どのように音楽をつくるかについて思いや意図が明確に記述されている。</li> </ul>	<b>[C になりそうな子供への支援]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の提案を受けて、どのように感じたか問い掛け、感じたことや考えたことを記述できるようにする。</li> </ul>
<b>【第5時】</b> ジャズ特有のリズムやブルー・ノート・スケール、コール&レスポンスなどの特徴や反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを生かしてつくり上げた音楽を聴き合い、そのよさを共有する。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●グループでつくり上げたジャズブルースを発表し、聴き合う。</li> <li>●発表を聴いて、感じ取ったよさについて伝え合う。</li> </ul>	
<b>【知・技③】</b> 〈発言内容、表現観察、ワークシート、演奏聴取〉	
<b>[A と判断するポイント]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャズアイテムを適切に反復、変化させながら、音の組合せやつなげ方、重ね方がバランスよく、全体がよくまとまっている。</li> </ul>	<b>[C になりそうな子供への支援]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャズアイテムの反復、変化のさせ方や音のつなげ方、重ね方を複数提示し、どれがよいと感じたか理由を問い掛け、教師も一緒に演奏することで、音の組合せ方の違いを感じ取ったり、自分が表したいイメージに近づけたりできるようにする。</li> </ul>
<b>【第6時】</b> 演奏者の異なる2種類の「Take Five」を比較鑑賞し、創作で体験したことをもとに音楽の構造と曲想との関わりを感じ取りながら鑑賞する。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●演奏者の違いによる曲想の違いを感じ取る。</li> <li>●「Take Five」を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを感じ取りながら鑑賞する。</li> </ul>	
<b>【思・判・表③】</b> 〈発言内容、ワークシート〉	
<b>[A と判断するポイント]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演奏している楽器の音色、ソロやアドリブ、繰り返されるコード進行を第1時の学習を振り返りながら詳細に聴き取り、2種類の演奏の共通点と相違点をより明確に見付けて聴いている。</li> <li>・ジャズのよさを自分がつくった経験をもとに、はっきりととらえて聴いている。</li> </ul>	<b>[C になりそうな子供への支援]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コード進行をピアノで演奏し、第1時と同様に手元を見せ、同じコードが繰り返されていることを聴き取るようにする。</li> <li>・再度、演奏している楽器の写真を提示しながら、鑑賞できるようにする。</li> <li>・自分たちのジャズアイテムを思い起こしながら聴くように促す。</li> </ul>